

令和元年度 企画展

鬪雞神社の歴史と文化

主催 田辺市立田辺歴史民俗資料館
会期 令和元年7月20日(土)～9月1日(日)
会場 田辺歴史民俗資料館 企画展示室
入場者 839名

○会場の様子○

第1章 5世紀の田辺【鬪雞神社創建期】



鬪雞神社は、允恭天皇8年(419)9月に勧請したとされますが、この頃の神社の歴史はよくわかっていません。

神社周辺を考古学の視点から見ると、砂丘上に墳墓が造られたほか、黒潮の海を舞台に活躍したことでも知られます。

第2章 鬪雞神社の成立と展開

『紀伊続風土記』や江戸時代に記された古文書には、熊野別当18代湛快のときに熊野三所権現を勧請したと記されており、その時期は12世紀前半に求めることができます。



江戸時代の新熊野鬪雞(鶏合)権現や現在の鬪雞神社の社名は、『平家物語』の故事に由来します。

その鬪雞神社は、熊野参詣の変化や、15世紀末以降に二度の戦乱に巻き込まれたことにより、大きく荒廃します。

第3章 近世以降の鬪雞神社

江戸時代になり田辺領主となった安藤家は、鬪雞神社を庇護し、また田辺城下町の町衆からも深い信仰を集め、神社は再興を果たします。



その後、明治元年（1868）の神仏分離令により、鬪雞神社に改称し、平成28年には世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録されます。

第4章 鬪雞神社と田辺祭

慶長5年（1600）、田辺領主となった浅野左衛門佐は、新熊野権現と祭礼の再興を図り、元和5年（1619）に安藤直次が田辺領主となると、城下町を整備するとともに鬪雞神社を庇護し、田辺祭も盛大に執り行われるようになります。



○展示解説○ 8月3日（土）、24日（土）に企画展の展示解説を行いました。

令和元年度夏期企画展/鬪雞神社御創建 1600 年記念

鬪雞神社の

歴史と文化

令和元年 7月20日(土)～9月1日(日)

田辺市立田辺歴史民俗資料館
(田辺文化交流センター2階)

闘雞神社の歴史と文化

中辺路と大辺路が分岐する田辺市街地の東に位置する闘雞神社は、社伝では允恭^{いんきょう}天皇 8 年 (419) の創建とされる由緒ある神社です。江戸時代には新熊野闘雞権現社^{いまくまのとうけいけんげんしゃ}といわれ、現在も権現さんの称で親しまれています。『紀伊続風土記』には熊野別当 18 代湛^{たん}快^{かい}のとき、熊野三所権現を勧請したと記され、闘雞神社の社名は、源平合戦の際に第 21 代熊野別当湛^{たん}増^{ぞう}が、紅白二色の鶏を神前で七番闘わせて神意を占い、すべて白色の鶏が勝利したことから源氏に味方することを決意したとする『平家物語』の故事に由来します。

平成 28 年 10 月に世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』に追加登録された闘雞神社は、今年で 1600 年の節目の年を迎えると同時に、例大祭『田辺祭』は今回が 460 回目の開催となります。

今回の企画展では、創建 1600 年を迎えた闘雞神社や神社の例大祭『田辺祭』の歴史を、所有する文化財や古文書、考古資料などをもとに紹介します。

【主な展示資料】

I 闘雞神社創建の頃 (5 世紀の田辺)

磯間岩陰遺跡出土品・田辺城下町遺跡 (下屋敷町周辺) 出土品

II 闘雞神社の成立と展開 (古代・中世)

獅子・狛犬、新熊野十二所権現勧進帖 (明応 5 年)、万代記

III 近世以降の闘雞神社 (近世から近代へ)

万代記、田辺町大帳、田辺領主安藤次猷^{つぐのり}奉納絵馬、田所家文書、神額

IV 闘雞神社と田辺祭

万代記、田辺町大帳、田辺祭絵巻 (期間中に巻き取りを行います)

【会 期】 令和元年 7 月 20 日 (土) ~ 9 月 1 日 (日)

【開館時間】 午前 9 時 30 分 ~ 午後 5 時

【休 館 日】 月曜日 (ただし 8 月 12 日は開館)、
8 月 13 日 (火)・22 日 (木)

【展示解説】 担当職員による展示解説を行います。

8 月 3 日、24 日 (土) いずれも午後 1 時 30 分から

お問い合わせ：田辺市教育委員会文化振興課 0739-26-9943

田辺市立田辺歴史民俗資料館 0739-25-6644